

令和 3 年度

幼保小連携活動報告

令和 4 年 8 月

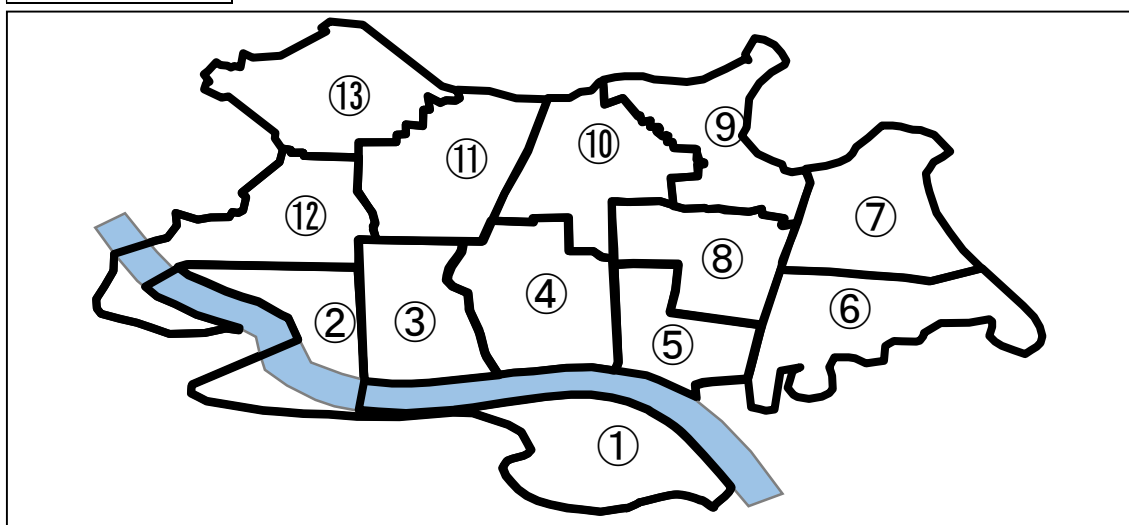
足立区教育委員会

子ども施設運営課・就学前教育推進担当課

目 次

I	各ブロック幼保小連携活動報告	
	第1ブロック	3
	第2ブロック	7
	第3ブロック	10
	第4ブロック	13
	第5ブロック	16
	第6ブロック	19
	第7ブロック	22
	第8ブロック	26
	第9ブロック	30
	第10ブロック	33
	第11ブロック	36
	第12ブロック	39
	第13ブロック	43
II	接続期教育研修	46

ブロック配置図



I 各ブロック幼保小連携活動報告

1 1ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
千寿	・足立 ・中条	・緑町 ・ういず千住大橋駅前 ・クレアナーサリー千住大橋 ・あい保育園千住大橋 ・まなびの森保育園千住大橋	
千寿本町		・ステラ千住ふたば	・Jキッズルミネ 北千住保育園
千寿双葉	・千住寿	・元宿こども園 ・北千住もみじの森	
千寿常東	・聖和	・日ノ出町 ・北千住どろんこ ・キッズガーデン足立柳原 ・北千住太陽	
千寿桜		・千住 ・北千住こども園 ・たんぼぼ保育所北千住園 ・帝京科学大学千住桜木	
千寿第八		・千住あずま ・せきや ・ういず千住曙町 ・アスク千住 ・まなびの森保育園関屋	・ぽけっとランド 千住曙町

2 第1ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【千寿第八小学校とせきや保育園の取り組み】

○ 学校紹介DVDの視聴

3月に学校紹介のDVDを視聴した。

授業、給食、校舎内の様子、学校行事や校庭遊びの様子など、小学校について様々なことを知る機会となった。学校行事の運動会の場面では、これまで児童が練習している姿を身近に見ていたことから、入学後の自分の姿に重ねながら興味深く見ていた。園児からは、「学校に行ったらいろんなことができるね」「楽しみだな」「学校は楽しそう」などの声が聞かれた。



【千住あずま保育園、日ノ出町保育園、北千住太陽保育園の取り組み】

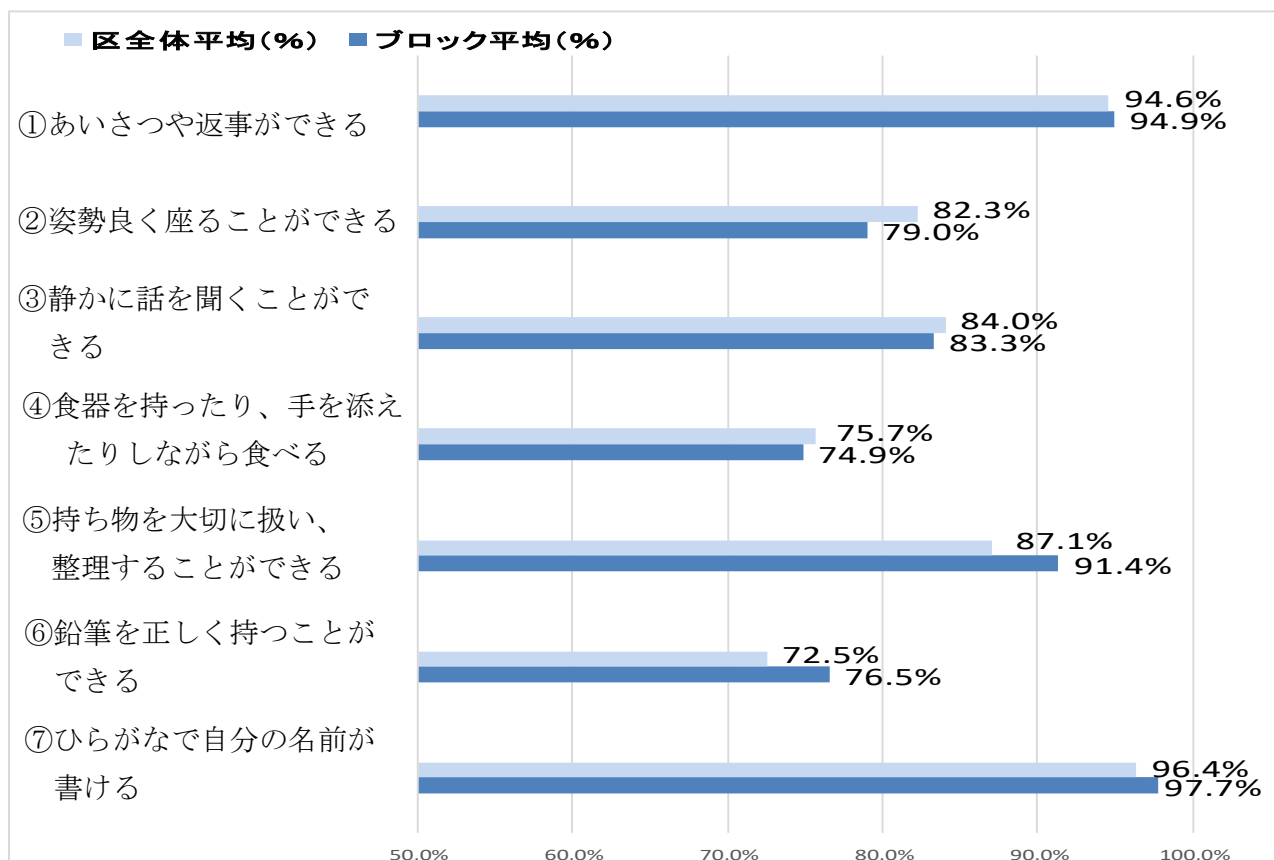
○ カード交換

3園の園児で、就学する小学校で楽しみなこと、頑張りたいことや自分の顔などを記入したカードを交換した。入学する小学校ごとにカードを紙に貼り、一枚にまとめると、自分と同じ学校に通う子が分かりほっとしたり、楽しみにしたりする様子が見られた。この掲示を自分たちの手で作り、見ることで、小学校に対する思いや期待が高まった。



3 令和4年度1年生アンケート結果

1ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

<小学校>

- ・ 集団の中で話の聞き方や姿勢保持、学校で身につける部分にまだまだ課題がある。
- ・ 偏食が目立つ。好き嫌いがあることにも食事のマナーには関係しているように感じる。
- ・ 鉛筆の持ち方は、入学後にすでに癖がついている子が目立つ。幼保で書いたり色を塗ったりする経験の中で鉛筆の持ち方が固まってしまっているように感じる。なかなか正しい持ち方に治らない現状がある。

<就学前施設>

- ・ 食事、姿勢、鉛筆の持ち方は共通して食事の姿に見られる。
- ・ 日々の声掛けや子どもが意識をもてるようにしているが、身につくには至らないことが悩みである。
- ・ 体幹や指先の微細運動の弱さが見られる。
- ・ 以前は、3歳で箸を持ち始めていたが、現在は4歳児後半から5歳児になってから使っている。

<全体>

- ・ 鉛筆、箸や食器のもち方含めて用具や道具の使い方の初期指導を徹底する必要がある。

- ・ 体幹を鍛え、姿勢保持ができる筋力等を鍛えると共に、話を集中して聞く態度の定着が必要である。

課題に関する子ども達の取り組み方針

<小学校>

- ・ 道具を使い始める初期指導の大切さについて、園・保護者・学校で改めて共通認識をする。どのような対策・指導ができるかトレーニング方法等について園の実情に合った方法を検討する。
- ・ 実施した指導方法や指導後の変化などについて効果を検証し、園・家庭・学校でその情報を共有しより良い改善方法にする。
- ・ 食事マナーと共に、好き嫌いをなく食べられるように食育に取り組む。栄養士による指導や学級での指導を定期的に行う。家庭への協力も個々にお願する。
- ・ 姿勢を保持する筋力や指先の功緻性を鍛えるトレーニングを意識的に授業の中で取り入れていく必要がある。またこのようなことが課題にあることを保護者に周知し、日常生活の中で経験の重要性を呼び掛けていく。
- ・ 静かに話を聞くことに関しては、小学校において最重要課題であり、『あだち幼保小接続期カリキュラム』に基づき、確実に指導をしていく必要がある。
- ・ 1対多の一斉指示を5歳児後半から意図的に取り入れ、話を正しく聞くことの必要性を意識させることが、幼児教育から小学校教育への円滑な移行に繋がると考える。

<就学前施設>

- ・ 乳幼児期に粗大運動や指先を使った運動が十分にできるように発達に合わせた環境づくりを行い、遊びを通して体幹や指先の微細運動につなげていく。
- ・ 体幹の弱さが見られるので、遊びの中でいろいろな動きができるように遊びの工夫をしている(リズム遊び・保育者が様々な動きを意識するなど)
- ・ 自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育者や友達の話に興味をもち、聞く経験を通して話を聞く楽しさや伝え合う楽しさを楽しめるようにしていくことで、話を聞こうとする気持ちを培っていく。
- ・ 野菜を育て、生長を楽しむとともに収穫・調理・食べるまでの食育活動を通して野菜への興味関心を培うことで食に対する意欲につなげていく。

<全体>

【基本的生活習慣の定着】

特に「書く」「食べる」等の際の用具等の正しい使い方の初期指導を徹底する。

【筋力や集中力の向上】

特に体幹を鍛え、姿勢保持ができる筋力を鍛えると共に、話を集中して聞く態度の定着を図る。

1 2ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
江北	<ul style="list-style-type: none"> ・足立サレジオ ・江北さくら 	<ul style="list-style-type: none"> ・江北 	
高野		<ul style="list-style-type: none"> ・上沼田 ・江北すきっぷ ・にじいろ保育園江北 	
扇		<ul style="list-style-type: none"> ・あい・あい保育園高野園 ・大空と大地のなーさりい扇大橋園 ・さつき 	
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・東京白百合 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城 ・三星 ・足立しらゆり 	

2 第2ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【宮城小学校と宮城保育園、三星保育園の取り組み】

○ 学校探検

1月に学校探検を行った。コロナ禍だったため、子ども同士の交流はできなかったが、廊下から授業の様子を見たり、図書室で本を読んだりした。

体育館では実際にボールを使って遊んだり、屋上に行きプールを見たりした。

子どもたちは、「廊下が長かった」「階段がいっぱいあった」「プールが大きかった」「跳び箱があった」など、驚いたことや印象に残ったことを話していた。また、授業の様子を実際に見て、「みんな前を向いて先生の話聞いていた」「みんな勉強していた」など、授業に対してイメージをもっていた。「学校に行ったら、実験室で勉強したい」「跳び箱8段を跳んでみたい」「図書室の本の続きが読みたい」など、具体的に就学を楽しみにする言葉が聞かれた。



[図書室]



[理科室]



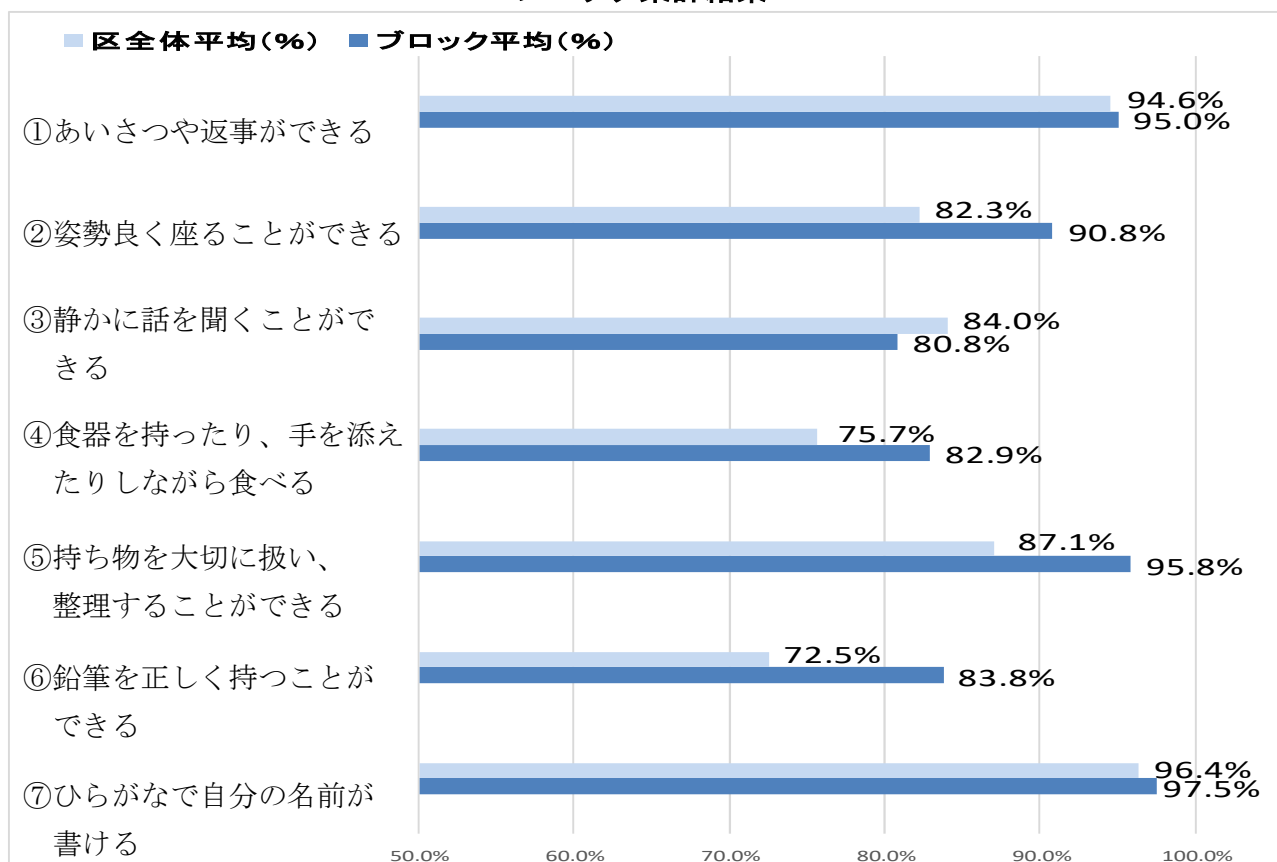
[プール]



[体育館]

3 令和4年度1年生アンケート結果

2ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 静かに話を聞くこと、鉛筆を正しく持てないこと、姿勢保持ができないことに課題が見られる。特に姿勢についてはコロナ禍による外遊びの減少などの影響も考えられる。
- ・ 就学した後の小学校での生活がイメージできない家庭も多く、家庭での教育について課題が考えられる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 教員や保育者の話を自分のこととして受け止め、自分なりに考え、理解して行動できるよう、絵や図の活用、分かりやすい言葉や簡潔な表現で伝えるなど、子どもの興味を捉えて教育・保育を推進する。
- ・ 児童と園児の交流、職員交流など、コロナ禍で継続できていなかったことを実施していけるようにする。
- ・ 各家庭様々な事情を抱えているので、保護者の思いに寄り添いながらも、小学校と就学前施設で連携を取りながら、保護者へ必要な発信をし、家庭の教育力向上をめざしていく。

第3ブロック

1 3ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井	・西新井	・興野 ・西新井教会 ・いづみ	
西新井 第一	・黒田	・西新井聖華 ・愛恵保育園にしあらい	・チェリッシュ 西新井
興本 (興本扇 学園)	・興南	・興本 ・キッズガーデン足立興野 ・アスク扇	
本木	・足立愛育 ・第一若草	・本木 ・本木東	
寺地	・足立双葉	・キッズガーデン足立扇 ・扇ころ	

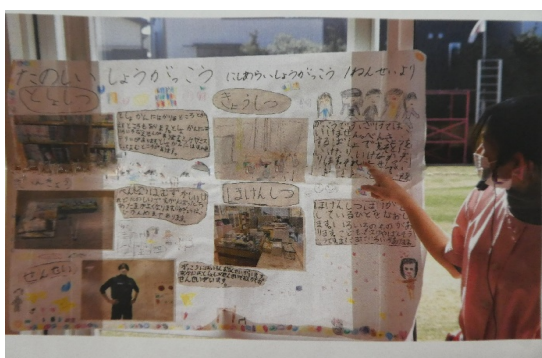
2 第3ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【西新井小学校と西新井幼稚園の取り組み】

○ ポスターにて学校紹介

1年生が『たのしいしょうがっこう』と題し、「きょうしつ」「としょしつ」「ほけんしつ」「べんきょう」「せんせい」を紹介したポスターを作成し、幼稚園に届けた。

受け取った幼稚園では、一つ一つを子どもたちに問いかけながら、丁寧に紹介した。園児は担任の問いに、考えたり、思ったことを発言したりし、1年生が書いた文字や写真を真剣に見ながら、話をよく聞いていた。



担任「保健室って書いてあります。何をするとおもう？」
園児「けがしたときに行くところ！」
担任は1年生が書いた内容を読む。
「ほけんしつはけがをしているひとをなおします。いろいろのものがああります。こどものマスクやばんそうこうです。まだいろいろああります」

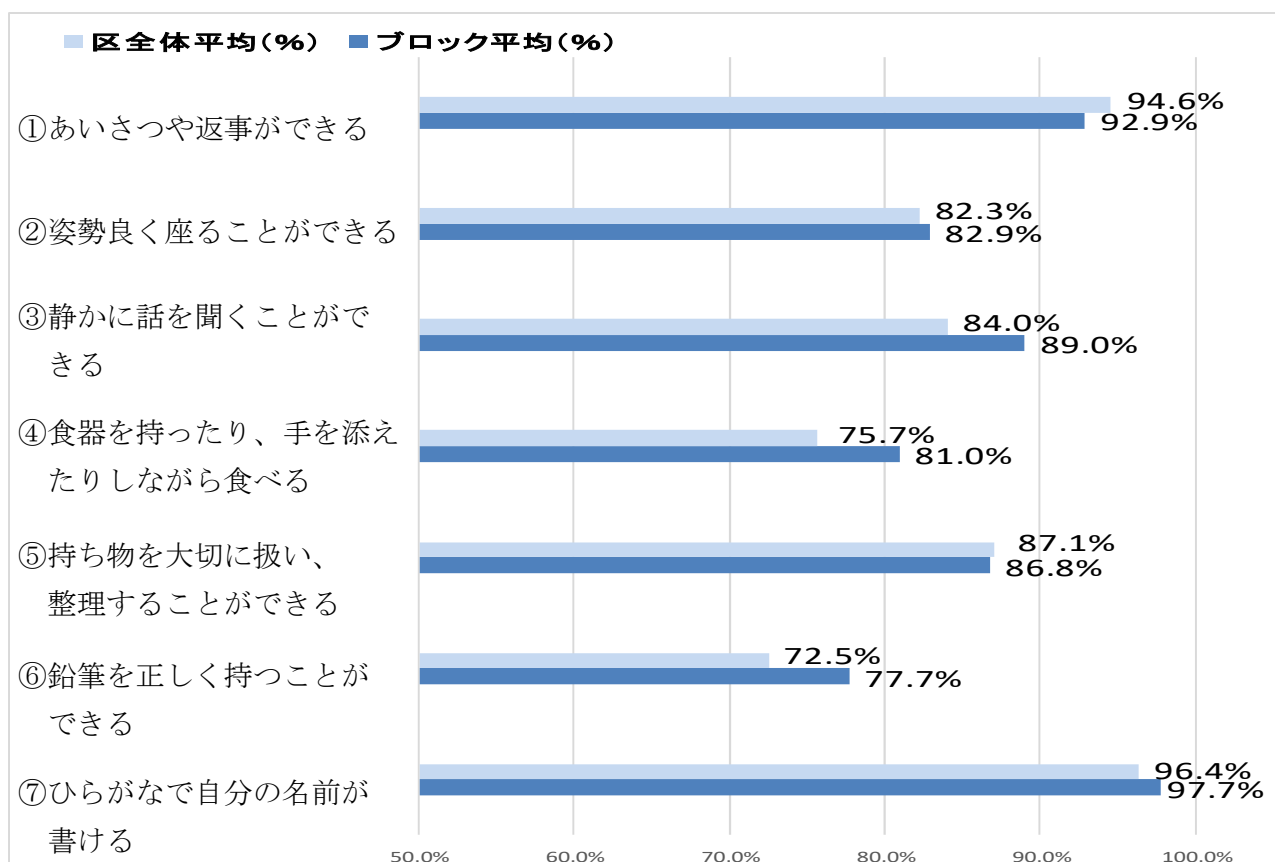
～1年生が書いた主な内容～

- ◇「としょしつには、かりるところとかえすところがあります。」「いろいろなえほんがあります。」「ミッケやミステリーがあります。」
- ◇「べんきょうはむずかしいけど、たのしいです。」「がんばったらあたまがよくなります。」
- ◇「がっこうには、いろんなせんせいがいます。」「ほかにはとしょしつのせんせいやおんがくのせんせいがいます。」



3 令和4年度1年生アンケート結果

3ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 鉛筆を正しく持てる児童が少ない。
- ・ 食事のマナーに関しては、食具を持っていない手を使わない児童が多い。
- ・ 姿勢良く座ることができていない児童が多い。
- ・ 挨拶や返事はよくできている傾向が見られる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 鉛筆の持ち方を毎時間確認する。正しく持てない児童には補助グリップや矯正キャップを貸し出していく。小学校体験の中では、椅子に座る経験や鉛筆を持つ経験を提供する。就学前施設では小学校で掲示している鉛筆の持ち方や座り方の表示を共有し、園児が意識できるようにしていく。
- ・ 食事のマナーに関して小学校では給食時間中に指導している。就学前施設では持ち方の指導が園児の負担にならないよう配慮し、遊びの中で持ち方の確認や正しい持ち方などを知らせていく。
- ・ 入学後の1か月は重点的に良い姿勢を取ることの大切さを伝える。また、児童を引き付けるような内容やポイントを絞って話すよう工夫していく。
- ・ 担任が見本となるよう、しっかりと挨拶をして迎えるようにしていく。

※ 鉛筆の持ち方、食事のマナー、正しい姿勢全てにおいて、家庭教育の差が大きい。就学前から身に付けておく必要があることを、保護者に具体的に知らせていく必要がある。

1 4ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
関原	・橘 ・専念寺	・足立ひまわり ・たんぼぼ保育所西新井南園	
梅島	・梅島	・うめだ「子供の家」 ・バンビ保育園梅島園 ・エーワン梅島 ・ミアヘルサ保育園ひびき 西新井	・ちぐさ保育園
梅島第一	・こだま	・島根 ・にじいろ保育園梅島	
梅島第二	・八千代	・梅田 ・親隣館	
島根		・栗原つくし ・島根いちい ・キッズガーデン足立島根	
亀田		・中部ひまわり ・ミアヘルサ保育園ひびき 梅島	
栗原	・満願寺	・西新井きらきら ・西新井きらきら第二 ・ちゃいれっく西新井駅前	

2 第4ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【梅島第一小学校とにじいろ保育園梅島の取り組み】

○ 作品展見学

11月に作品展を見学した。

学校内では、階段にも作品が飾ってあり、期待を高めながら作品展の会場の体育館に向かった。会場では、張り子の作品や、綿を丸めて色付きのチョークの粉を振りかけたフワフワの作品を見て、「どうやって作るのかな」と言いながら、じっと見ていた。

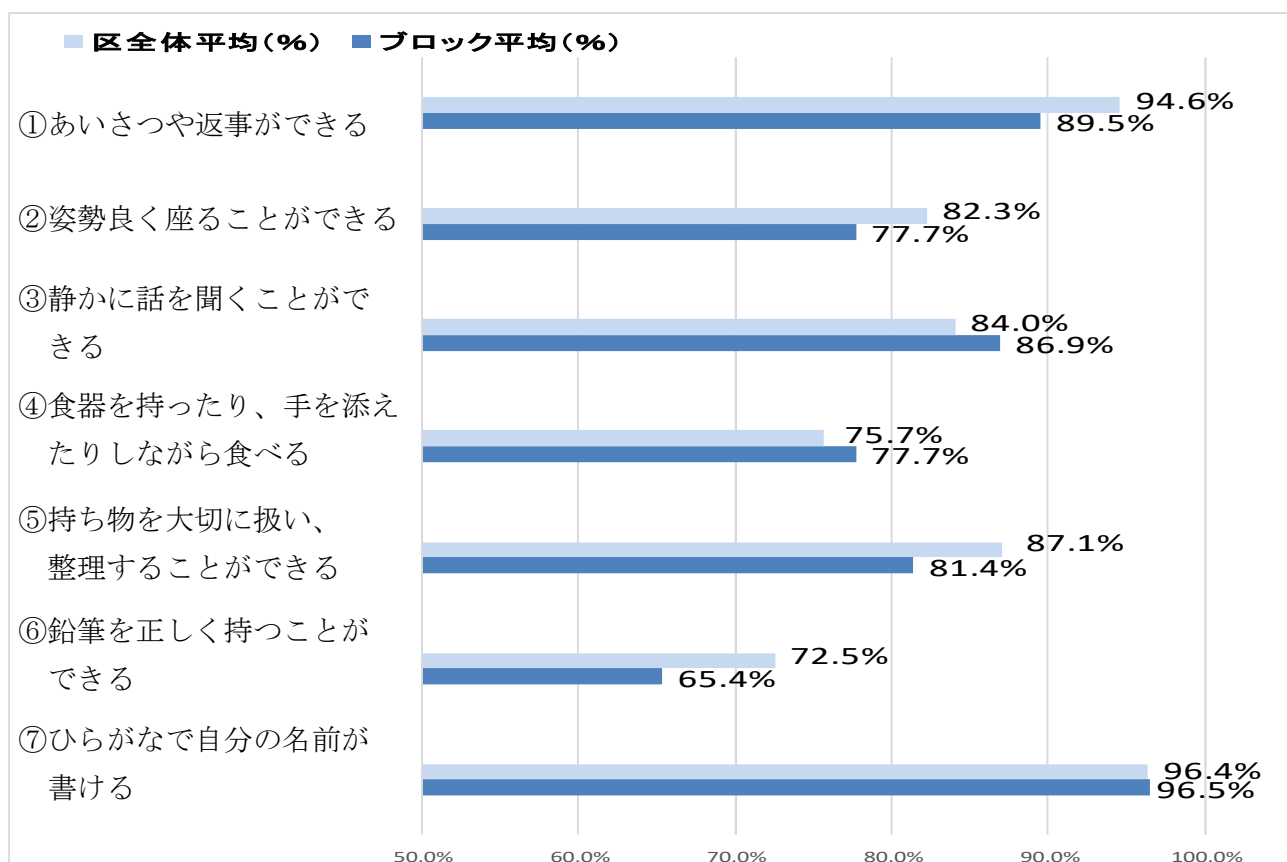
園児は園生活の中で、段ボール箱や様々な素材を使って遊びに必要なものを作って楽しんでいたので、小学生の段ボールで作った作品を見て製作活動の刺激になった。

多くの作品を見学した後、「ありがとうございました!」「もっとあるのかな」と、もっと見たいという気持ちを言葉で表したりしていた。



3 令和4年度1年生アンケート結果

4 ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

「①あいさつや返事ができる」については、9割近く達成できているが、足立区全体でより5ポイント下回っている。「⑤持ち物を大切に扱い、整理することができる」「⑥鉛筆を正しく持つことができる」についても足立区を下回っている。⑥については、学習に不可欠である。小学校の日常の学習の中で早い段階で、身につかせていく。「③静かに話を聞くことができる」については、86.9%で足立区より若干上回っているところではあるが、10数%の児童が静かに話が聞けないことが分かる。「姿勢良く座ることができる」の77.7%と合わせ、1年生の各学級に2~3名程度の児童となり、各学校1年担任の苦労がうかがえる。コロナ前と比較すると全体的に下回る傾向が見られる。

- 就学前に小学校の学習に必要な基本的な生活習慣や学びに向かう力の基礎の育成・連携が課題となる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ あいさつの習慣化・話を落ち着いて聞くことができる子供の育成
- ・ 子供の実態をつかむ（年長・5歳児担任 1学年担任の園・学校での交流）
- ・ 子供の学校の様子を知る機会や学校体験を設ける。

第5ブロック

1 5ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所 認可外保育所
足立	・春光	・高和 ・子ひばり ・五反野	・Aloha International Preschool
弥生	・城北	・中央本町 ・足立梅島雲母 ・足立さくらんぼ ・やよい	・ぱる★キッズ 足立
弘道	・弘道 ・五反野	・トレジャーキッズあやせ ・西綾瀬りりおっこ	
弘道第一	・のぞみ	・聖華こうどう ・キッズガーデン足立青井	

2 第5ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【弥生小学校と城北幼稚園の取り組み】

○ 学校探検

11月に学校探検を行った。

園児は学校探検を楽しみにしていて、期待をもって小学校に向かった。小学校では、副校長の案内で、授業の様子や掲示物を見たり、児童がいない学年の教室を見学したりした。また体育館では、高学年の体育の授業を参観した。

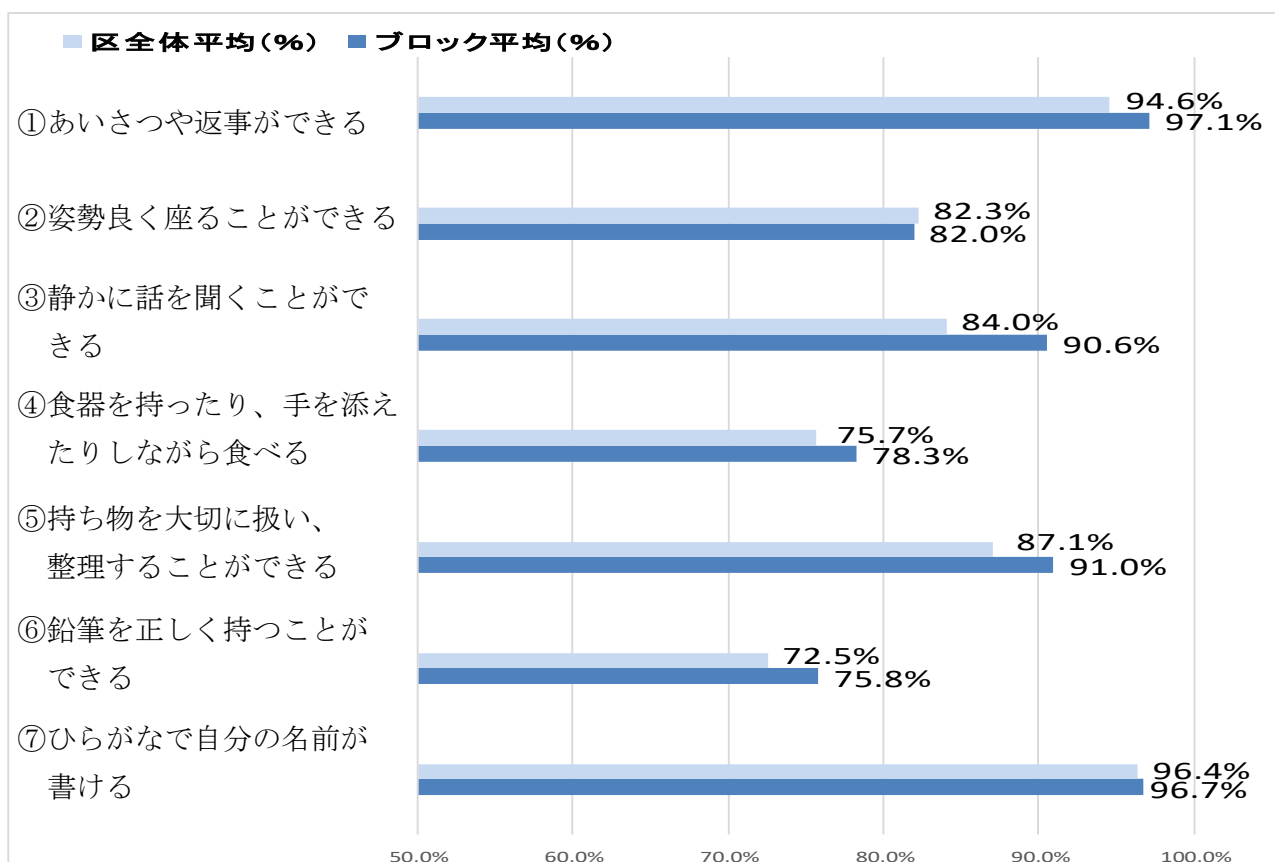
廊下から授業を見たとき、児童の様子がとても静かであることに、園児は緊張の姿を見せていた。兄姉の行事見学のときとは違う、小学校の様子を知る体験となり、就学に向けての期待を高めることにつながった。

コロナ禍であっても連携活動を実現させようとする小学校の対応は、就学前教育・保育施設と小学校の望ましい接続となった。



3 令和4年度1年生アンケート結果

5ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ コロナの影響により2年前から小学校のスタートにおいて困難な状況が続いてきたが、アンケート結果からは、小学校と園とで取り組んできたことが一定の成果を上げていると言える。
- ・ ②姿勢保持、④食事マナー、⑥鉛筆の持ち方は身に付いている割合が低いため、この状況をブロックの小学校、園の中で共有して改善を目指していくことが必要である。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 日頃から、体を動かすことが楽しいと感じられるような遊びを通して、様々な動きを経験して健康な体作りをする。
- ・ 学校探検、体験給食、ビデオレターなど状況をふまえながら交流を図る。園児が小学校生活への期待やあこがれの気持ちから、自分の力で取り組もうとしたり、自分の生活をよりよくしようとする気持ちを育てていく。同時に、1年生が成長を実感できる機会としたい。
- ・ 小学校への質問を手紙にしたり、1年生からの返事を読んだりするやり取りを通し、文字を書く楽しさを感じる中で、鉛筆の正しい持ち方を知っていけるようにする。

1 6ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
綾瀬	・足立白うめ	<ul style="list-style-type: none"> ・あやせ ・東部若葉 ・チェリッシュ綾瀬 ・キッズガーデン足立綾瀬 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビプラザ 綾瀬保育園 ・ぽけっとランド 綾瀬
東綾瀬		<ul style="list-style-type: none"> ・東綾瀬 ・足立若葉 ・東綾瀬きらきら ・あやせババール園 ・恵・YOU 	
東加平	・チェリー	<ul style="list-style-type: none"> ・北綾瀬聖華 ・にじいろ保育園綾瀬 	
東湊江		<ul style="list-style-type: none"> ・東 ・チェリー ・聖母のさゆり ・ソラストあだち東和 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり保育園 東和
北三谷	<ul style="list-style-type: none"> ・親愛 ・美松学園 	<ul style="list-style-type: none"> ・東和 ・ビーフェア東和親水 	
大谷田	・聖フランシスコ	・隅田学園	
長門		・隅田学園	

2 第6ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【北三谷小学校とあやせ保育園の取り組み】

○ 小学校教員による5歳児の保育参観

小学校教員が、5歳児の現状を理解するために保育観察をした。

入学を意識し始めている園児は、小学校の先生に会うことをとても喜んでいました。

園児は教員に、好きな遊びやできるようになったことを伝えたり、やってみせたりしていた。また、小学校の様子について質問する園児もいた。

教員に見てもらったり、褒めてもらったりし、嬉しそうにする姿から、入学への期待が膨らんでいることがわかる。



【綾瀬小学校と東部若葉保育園、チェリッシュ綾瀬保育園、

キッズガーデン足立綾瀬、恵・YOU保育園、あやせ保育園の取り組み】

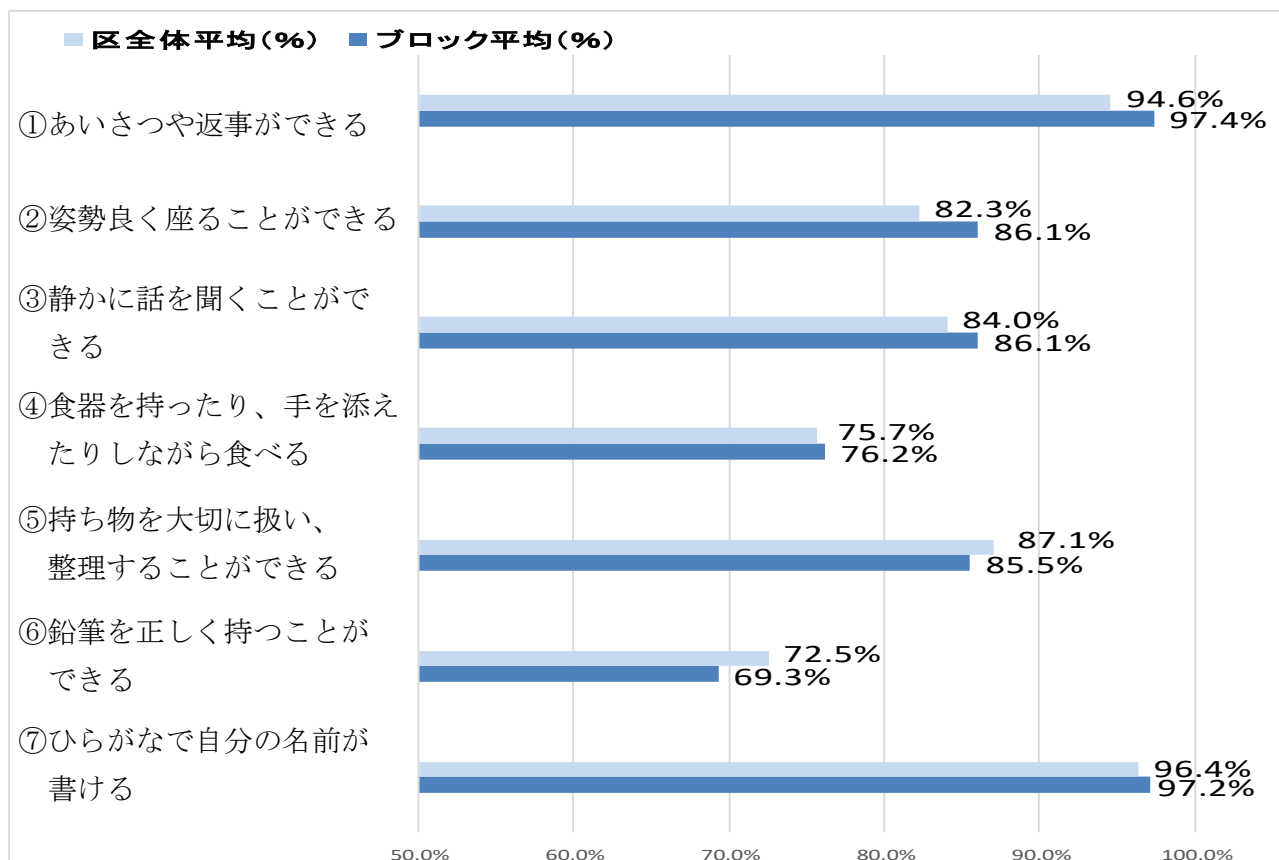
○ 音楽会鑑賞

密を避け、各園時間を変えて鑑賞した。学校の中に入ると、園児はとても嬉しそうだった。

体育館の広さに少し緊張している様子だったが、児童の姿勢の良さに気付いたり、児童の合奏に引き込まれるかのように聴いたりしていた。保育園に帰ると楽器に触れ、小学生のようにきれいな音を出そうとしたり、リズムを意識して演奏しようとしていたり、意欲的に音楽活動に取り組んでいた。

3 令和4年度1年生アンケート結果

6ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 鉛筆の持ち方に課題がある。入学しても筆圧が弱い児童がいる。
- ・ 45分間、座っていることが難しい。
- ・ 鉛筆の持ち方や座っていることが課題となっているが、体幹が関係している。
- ・ 食器の持ち方については、学校の食器が就学前より大きいことも影響していると考えられる。
- ・ 自分のこと、自分の思いを言えるようになるとよい。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 室内遊び、戸外遊びともに主体的に遊ぶことができる環境を整え、意欲をもって活動に取り組めるようにする。
- ・ 全身を使った遊びから指先を使った遊びまで多様な取り組みを行っていく。
- ・ 鉛筆や食器の持ち方は、活動の機会を捉え継続的に指導していく。
- ・ 可能な限り幼保小の連携を推進し、交流活動時に鉛筆の持ち方を確認しあう。
- ・ 食事の姿勢や鉛筆の持ち方について学年だより（学校）やクラスだより（園）で保護者へ伝え家庭とも連携していく。

第7ブロック

1 7ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中川		<ul style="list-style-type: none"> ・大谷田第一 ・足立北綾瀬雲母 ・あい・あい保育園北綾瀬園 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェリッシュ 北綾瀬
中川北	<ul style="list-style-type: none"> ・黒川 	<ul style="list-style-type: none"> ・六木 	
辰沼		<ul style="list-style-type: none"> ・辰沼 ・きたあやせこころ ・未来っ子保育園北加平町園 ・チェリッシュやなか 	
中川東	<ul style="list-style-type: none"> ・東京いずみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおやたこども園 ・ナーサリースクール いずみ大谷田 	
六木	<ul style="list-style-type: none"> ・六木 	<ul style="list-style-type: none"> ・神明町 	

2 第7ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【辰沼小学校とチェリッシュやなか保育園、辰沼保育園の取り組み】

○ 学校探検

冬季休業日に、2園一緒に学校探検をした。

図書室にたくさんの本があることに驚いた様子で、図書室を見回している子もいた。小学生用の椅子は大き過ぎて床に足が届かない子もいた。副校長先生の話は、話をする人の方に顔を向け、静かに聞いていた。



【中川小学校と足立北綾瀬雲母保育園、大谷田第一保育園、

おおやたこども園の取り組み】

○ 学校紹介DVDの視聴（1年生の様子）

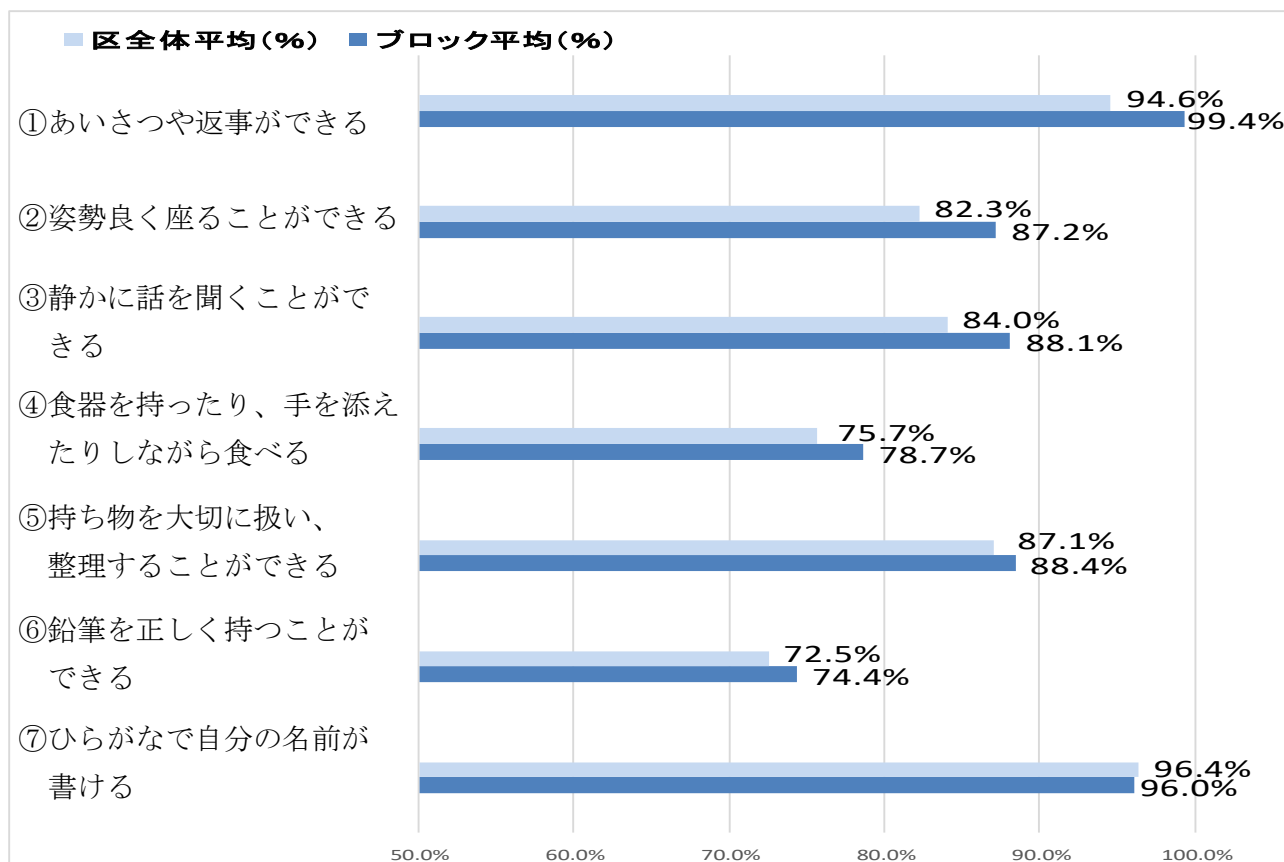
園児は、着席の仕方、鉛筆の持ち方、寸劇で小学校の様子などを伝える動画を見た。

1年生と同じように鉛筆を持ってみたり、姿勢を意識して椅子に座ってみたりする。園児の要望により繰り返し動画を見る中で、小学生に憧れの気持ちをもったようだ。



3 令和4年度1年生アンケート結果

7ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

④⑥について

- ・ 指先を使う遊びや全身運動（粗大運動）の時間の不足が、子供の体幹や末端の発達に影響しているのではないかと考える。食具の持ち方が鉛筆の持ち方へとつながることを踏まえた取り組みが必要である。
- ・ 家庭での食事マナーの継承機会の減少により、食事の際の姿勢や食べ方が身に付いていない。
- ・ 手指の分化が十分に進んでおらず、入学前に正しくない持ち方が定着してしまっている児童が見受けられる。入学後に修正していくのは時間と労力を要する。

②③について

- ・ 着座姿勢が保てないことは、話を静かに聞くことの困難さにもつながっているのではないかと考える。また、人の話を聞くよりも、自分の話を聞いてほしいことを主張する場面が見られる。

以上を受け、遊びを通しての体づくり、食事時や画材使用時の適切な援助、言葉で伝え合う力を育む関わりや取り組みの充実が必要である。

課題に関する子ども達の取り組み方針

【保育園】

④⑥について

- ・ 椅子の高さ、食具、画材などは発達に合わせたものを用意する。着席時に姿勢が崩れてしまう時は、さりげなくボディータッチや言葉かけを行い、意識できるようにしていく。
- ・ 鉛筆や箸を持つ機会を捉え、望ましい持ち方を具体的に知らせたり、絵や写真などの視覚提示を効果的に行ったりしていく。できたときは褒め、自信につなげていく。家庭へも周知し、協力して進める。

②③について

- ・ 思わず体を動かしたくなるような環境づくりを行い、一人一人の発達の特性に合わせた粗大運動、微細運動を無理なく経験していくなかで、体幹を鍛えたり、指先の発達につなげたりしていく。
- ・ 子供自身が話をきいてもらう経験を重ねる中で、他者の存在を認め、話を聞こうとする態度を育てる。日常会話の中で、他者の話を聞いて自分の思ったことを伝え合う経験を十分に楽しむ。

【小学校】

④⑥について

- ・ ②の取り組みで姿勢良く座ることが食器を持つ習慣にもつながっていくものと考え。毎回給食の時間に食器を持ったり、手を添えたりしながら食べるように指導や声かけをして身に付けさせる。
- ・ 幼稚園や保育園、家庭と「鉛筆の正しい持ち方」を共有し、指導につなげていく。
- ・ 鉛筆の正しい持ち方の写真を掲示し、常に意識させる。
丁寧にその都度、持ち方を確認し、徹底して指導する。
- ・ 正しくない持ち方の癖がついてしまっている児童には、クリップを使って矯正する。
手指の分化を進めるために、折り紙や塗り絵、鉄棒などの活動を通して経験を積ませる。

②③について

- ・ 集中できるような活動・メリハリをつけた取り組みを意図的に計画していく。
- ・ 「ぐー、ぺたっ、ぴん、さっ」を意識させた声かけを行う。
- ・ 椅子に座った時だけでなく、体育座り・気をつけの時も姿勢を意識させる。

どの項目も家庭や幼稚園、保育園、学校で情報を共有し、入学までに身に付けられるようにする。入学後も継続して指導を行う。

第8ブロック

1 8ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
栗島	・栗島		
加平	・あおい	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽ保育所六町園 ・たんぽぽ保育所第二六町園 ・六町駅前 ・野のはな 	
東栗原		<ul style="list-style-type: none"> ・東栗原 ・明日葉保育園保塚園 ・クリアナーサリー足立さくら園 	
平野	・足立つくし	・平野	
青井		<ul style="list-style-type: none"> ・明日葉保育園青井園 ・あい・あい保育園綾瀬六丁目園 ・青井 	

2 第8ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

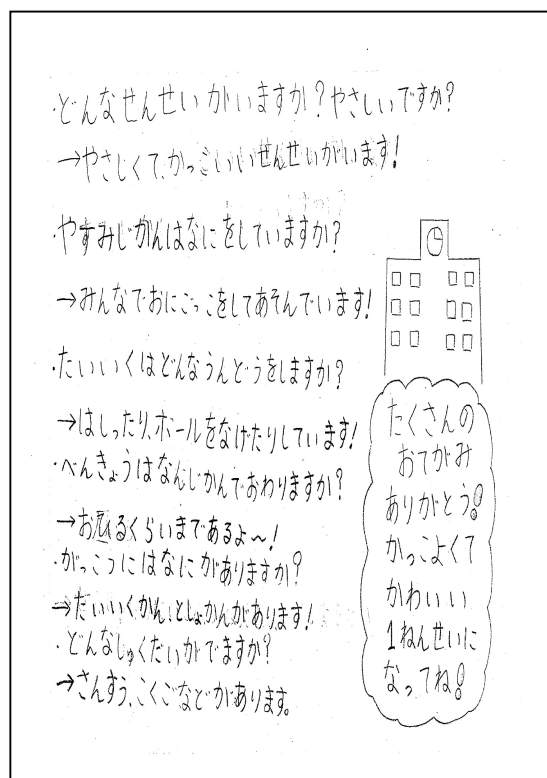
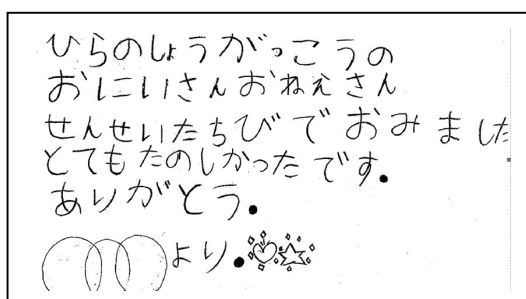
【平野小学校と平野保育園の取り組み】

○ 学校紹介DVDの視聴

3月に学校紹介のDVDを視聴した。

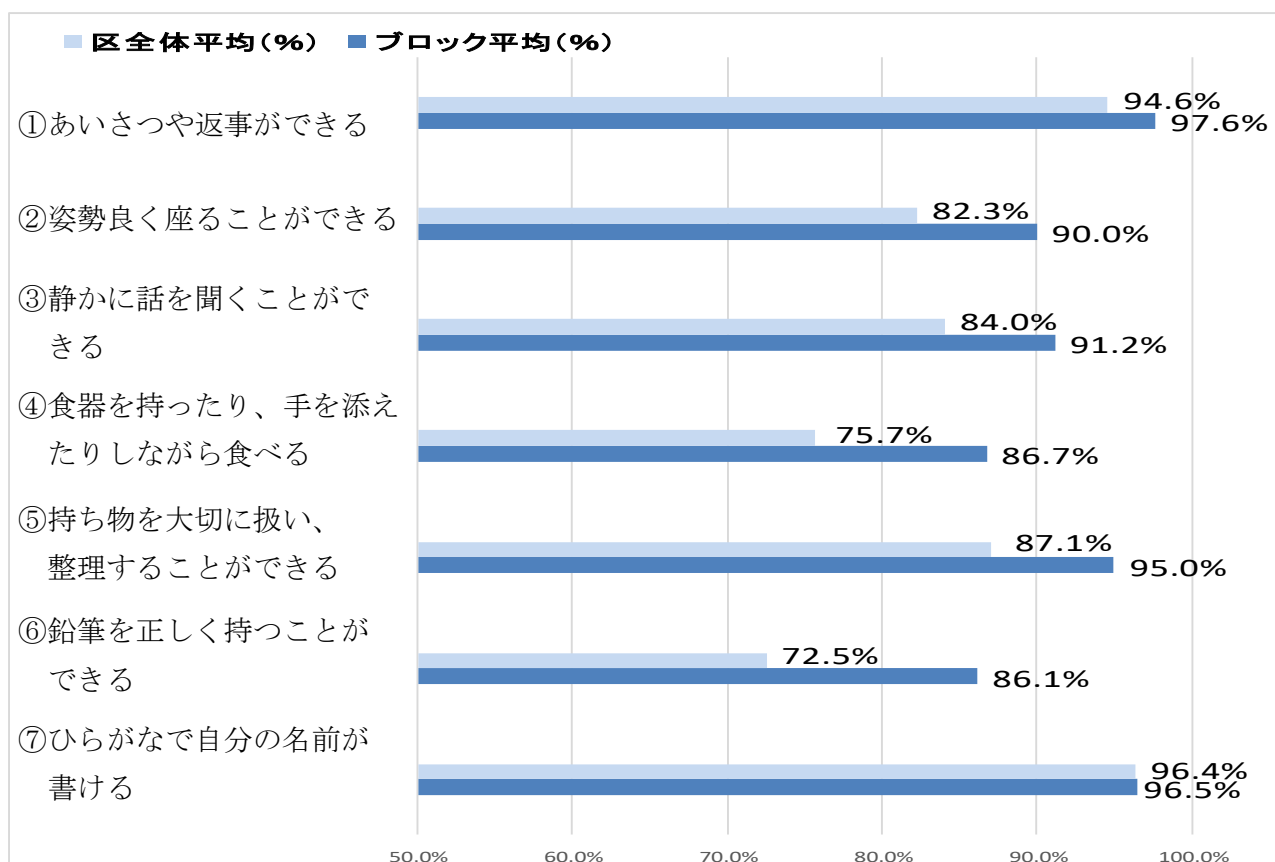
視聴した後、「DVDを見て楽しかった」「勉強は難しいのか」「どんな宿題が出るのか」など、感じたことや疑問に思ったことを手紙に書き、小学校に届けた。

小学校では6年生が受け取り、質問の答えを手紙で返してくれたことで、小学校への親しみの気持ちや就学への期待が高まった。



3 令和4年度1年生アンケート結果

8ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 全体的に区の平均より上回っているとはいえ、姿勢保持、話を静かに聞く、鉛筆を正しく持つ、食器の持ち方などについては、約10%の児童に課題があることが分かった。
- ・ 机やいすにもたれかかる、椅子の上に足を上げる、足を組むなど、話を聞く時の姿勢が保持できない。
- ・ 静かに話を聞いているように見えるが、実際は理解して聞いていないことがある。
- ・ 話を最後まで聞かず、気になることや自分の話を勝手にしてしまう。
- ・ 常に机の上にあるものを触りながら話を聞く。
- ・ 鉛筆の持ち方に間違えた癖がついてしまい、なかなか直らない。誤った持ち方をしている。
- ・ 食器を手で持たない、皿に口を近づけて食べる、箸を正しく持てていない。
- ・ 自分から挨拶ができる児童が少ない。
- ・ 就学前施設からも、子どもたちの経験不足、姿勢保持、運動機能の低下、自己表現や相手の話を聞くこと、集団活動の参加などの課題が出された。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ コロナ禍で幼保小連携活動が制限された。これまでに行われてきた幼保小連携活動の意義やその重要性を改めて感じている。
- ・ 今年度もコロナ禍ではあるが、幼保小連携活動を工夫しながら一人一人の子どもの育ちを大切にしたい手立てや活動を進めていく。
- ・ 教職員と保育者とが子どもの実態を知り、互いの理解を深めて交流していく。

小学校

- ・ 体幹の弱さが姿勢保持能力の低さにもつながっている。体育の学習で体幹を意識した運動を取り入れていく。
 - ・ ゲーム感覚を取り入れながら、姿勢をキープできる時間を延ばしていく。
 - ・ 話を聞く時や座り方の約束を常に意識させる。→声かけ
 - ・ 授業中の指導や掲示物などで持ち方を意識させる。机間巡視時に個別に指導する。
 - ・ 箸の持ち方を一人一人確認していく。
 - ・ 食器を持って食べることを声掛けしていく。
 - ・ 家庭と連携を図る。
 - ・ 各就学前施設の課題に向けた手立てを講じて取り組む。
- 運動遊び、鉛筆や箸の持ち方、話を聞く力、話をする力、友達とのかかわり、集団活動への意欲など

第9ブロック

1 9ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
花畑		・六町あづま	
花畑第一		・東花畑	
花畑西	・杉の子	・レイモンド花畑	
桜花	・花畑八千代	・花畑桑袋	
花保	・石鍋	・南保木間 ・愛隣 ・六町 ・東保木間	

2 第9ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【花保小学校と南保木間保育園の取り組み】

○ 模擬授業体験

1年生担任が交流研修時に模擬授業を行った。園児は着席や返事の仕方、鉛筆の持ち方などを教えてもらった。上手くできないことに不安を感じた園児もいたが、「まだ、できなくても大丈夫」と小学校の先生に言われると安心した様子で取り組んでいた。注意深く鉛筆を持ち書く姿や姿勢の良さをほめられたり、丸を付けてもらったりして、嬉しそうに取り組んでいた。



【花畑第一小学校と東花畑保育園の取り組み】

○ 展覧会見学・学校探検

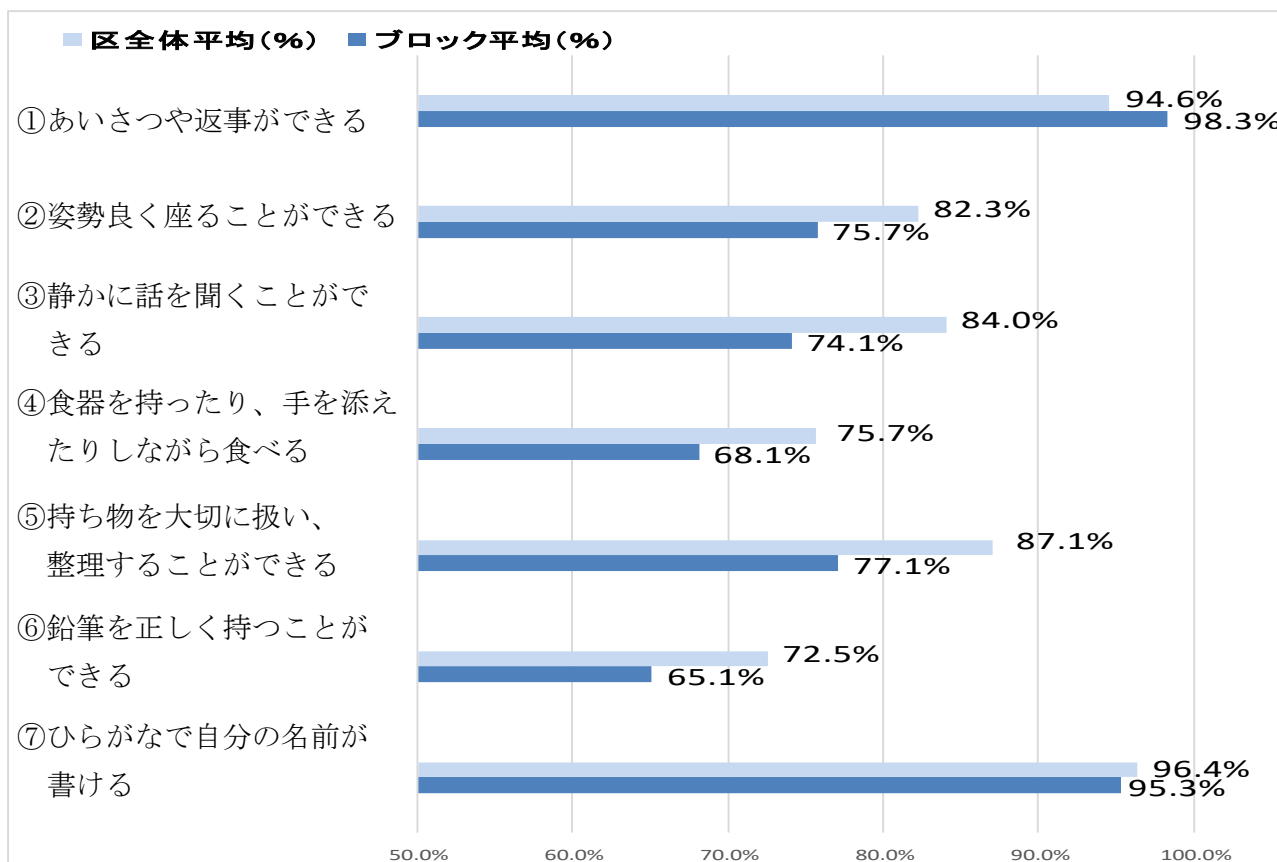
自由に展覧会を見学した。始めは作品の素晴らしさに圧倒された様子だったが、自分も作ってみたいという憧れの気持ちをもって作品をじっと見たり、友達と話したりする姿が見られた。

学校探検ではランチルームや図書室、教室を見学し、教室の広さや大きなテーブルなどに驚いていた。小学生が姿勢よく着席する姿や話を聞く態度を見て、小学生になることへの期待が膨らんだ。



3 令和4年度1年生アンケート結果

9ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見てきた課題

- ・ 運動不足のためか体力が落ち、体幹が弱く姿勢の保持や微細運動の苦手な子が多い。
- ・ 話を聞いてはいるが、言葉や内容をどれくらい理解しているのかは不明である。
- ・ 自分の思いをうまく伝えられなかったり、聞きたいけれど聞けなかったりという姿がみられる。
- ・ 言葉で表現する力が育っていないため、感情の表現がうまくできず、奇声を発する子もいる。
- ・ マスクをしているため大人が口元を見せられないこともあり活舌が悪い。
- ・ 家庭での生活習慣が身につけていないため、個別対応が必要な子が増えた。家庭での生活リズムが崩れ、長期欠席する子もいる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

○家庭教育を促す活動の充実

- ・ アンケート結果を保護者に知らせ、春から夏休みに向けて、規則正しい生活や個々の課題に向けて取り組む。
- ・ 小学校管理職や教員が保育園の保護者会等に参加し、時期に合った取り組みや注意点を話す。

○思いを言葉で伝える力の育成（話す・聞く）

- ・ 語彙数を増やす（読書活動・身近な環境に関連した語句・M I M・発表・対話など）
- ・ 話し方や聞き方の確認と習得
- ・ 自分の経験や気持ちの言語化（発表・役になりきった会話・ソーシャルスキルトレーニングなど）

1 10ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中島根		・中島根	
渕江	・竹塚	・竹の塚北	
渕江第一	・小倉	・保木間 ・北保木間 ・まなびの森保育園竹ノ塚	
西保木間		・西保木間 ・水神橋	
保木間		・竹の塚	
竹の塚	・ふちえ	・渕江	・保育園ミルキー ウェイ竹の塚

2 第10ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【浜江第一小学校と小倉幼稚園、保木間保育園、北保木間保育園の取り組み】

○ 学校紹介DVDの視聴

1年生が小学校生活を紹介している動画を視聴した。園児は集中してDVDを視聴し、同じようにやってみたり、給食や休み時間を楽しみにしたり、入学への期待を膨らませていた。保木間保育園の園児は、文字を使って感想を書いたあと、大きな紙に貼って1年生に届けた。

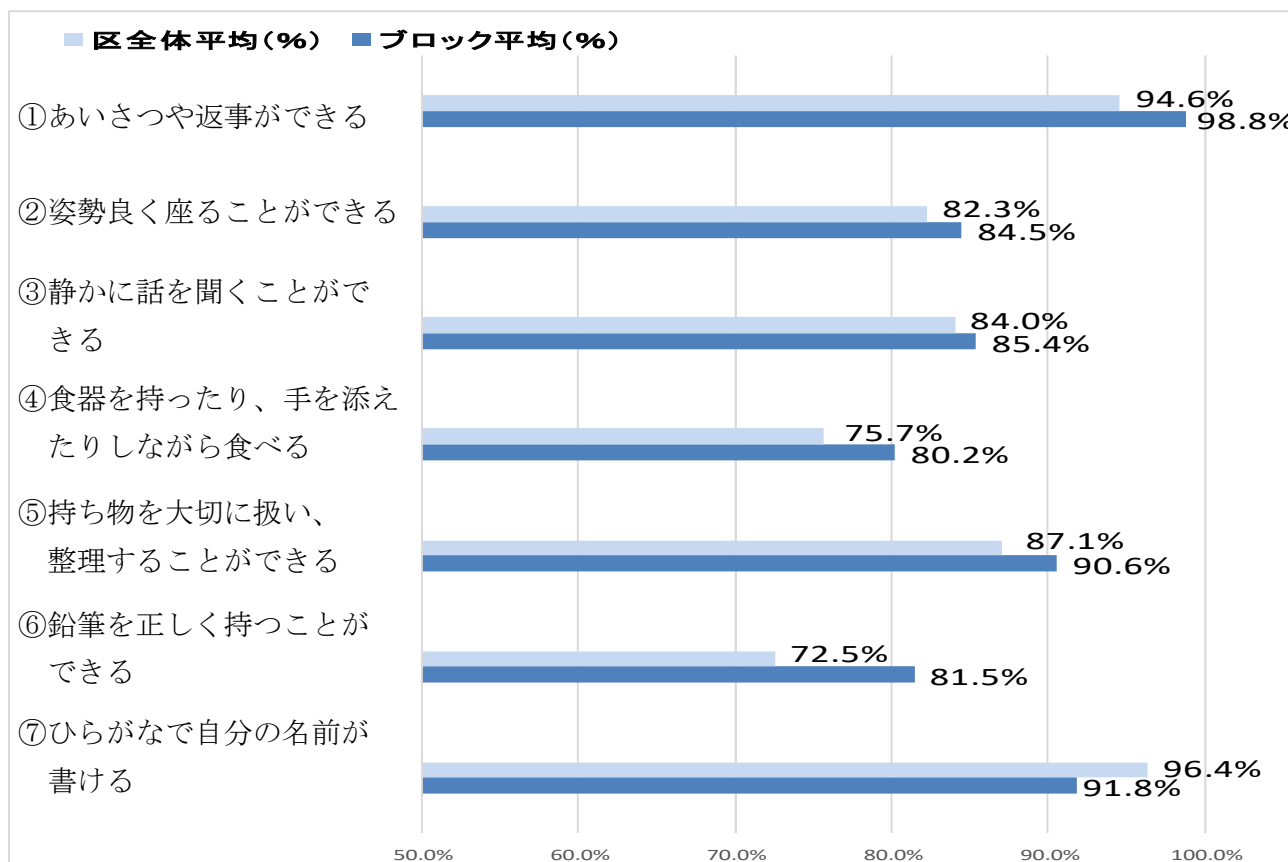


【浜江第一小学校と北保木間保育園の取り組み】

○ 模擬授業体験

小学校の先生の授業があることを事前に伝えていた。園児は興味津々でその日を待ち、当日は姿勢よく着席して先生の話の静かに聞いていた。画用紙にクレヨンでグルグルと力強く曲線を描くと線と線が重なり様々な形ができることを面白がり、友達と見せ合ったり、好きな色を塗ったりしていた。小学校の先生にそれぞれの良さを褒めてもらおうと、嬉しそうな表情を見せていた。

3 令和4年度1年生アンケート結果 10ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- 鉛筆の持ち方や巧緻性低下の課題が見られる。また、姿勢の保持の難しい子どもがおり、手先を使った遊びや活動の取り組みの他、運動面の視点から体幹を育てる必要がある。
- 食器に手を添えることや正しい箸の持ち方も身に付いていない姿がある。マナーだけでなく手先の器用さが落ちている。
- 言葉で伝え合う体験や豊かな言葉の習得に課題があり、言葉の力が不足していると考えられる。話を聞くことができない、話の内容が伝わっていない子どももおり、人との関わり、人とのコミュニケーション力にもつながっているので心配がある。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- 子どもの興味や関心に沿って多様な動きを取り入れた活動を通して、十分に体を動かす体験を積み重ねていく。就学前施設では手先を使った遊びを通して鉛筆や正しい箸の持ち方を個別に丁寧に指導していく。
- 小学校の図書利用や読み聞かせの交流体験（新型コロナウイルス感染状況を踏まえてオンラインも活用）など絵本や図書に触れる機会を通して、豊かな言葉や表現を身に付ける。
- 自分が経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を興味をもって注意して聞いたりなど言葉による伝え合いを楽しませるようにしていく。

第11ブロック

1 11ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井 第二		<ul style="list-style-type: none"> ・西新井 ・iー保育園 ・清水 ・アスク西新井 	
西伊興	・佐藤	・ういず西新井	
栗原北	・はなぞの	<ul style="list-style-type: none"> ・くりはら愛育 ・伊興大境 	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽ保育所 竹の塚園
伊興	・福寿院	・伊興	
東伊興	・本行寺附属第二伊興	<ul style="list-style-type: none"> ・伊興すみれ ・こころたけのつか 	

2 第11ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【西新井第二小学校とアスク西新井保育園の取り組み】

○ 模擬授業

12月に模擬授業を体験した。

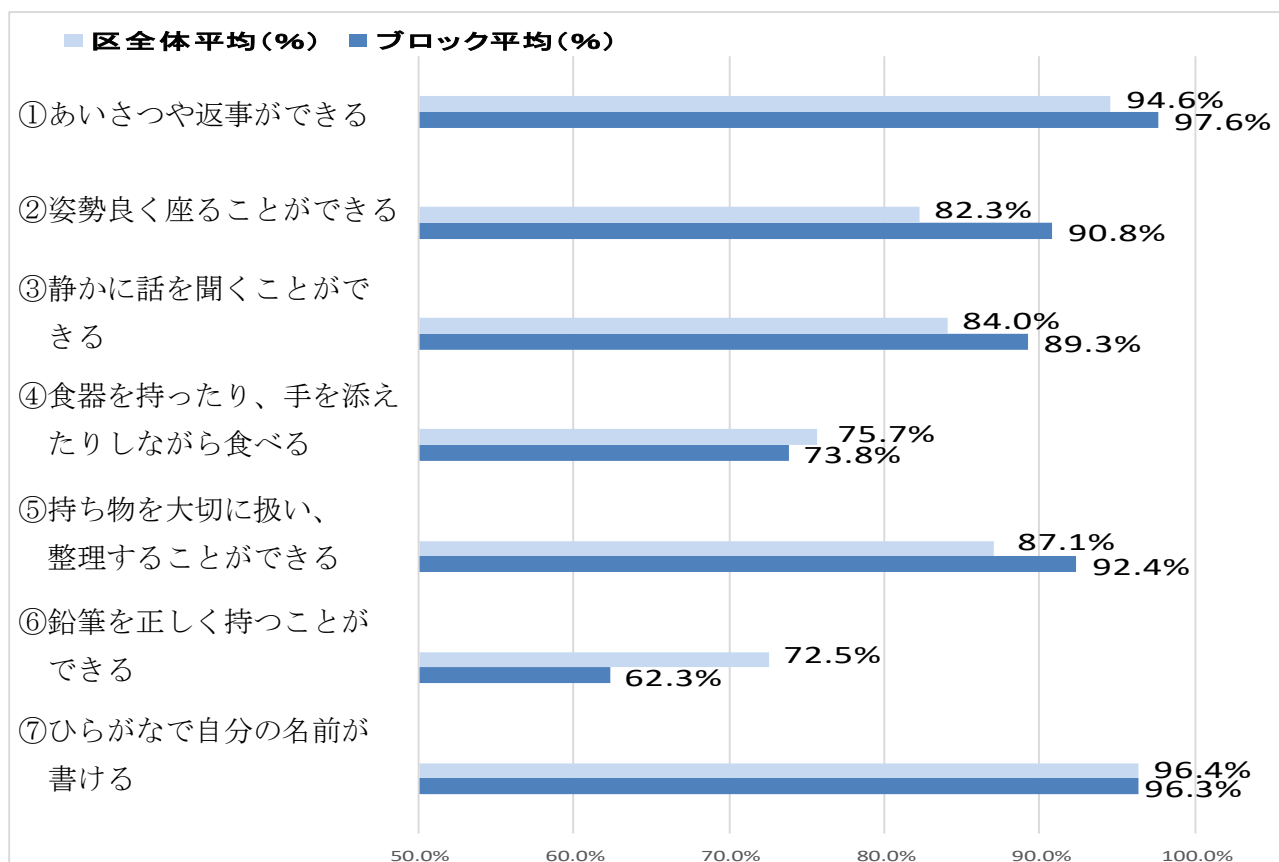
園児は2クラスに分かれて教室に入り、緊張の面持ちで席に着いた。教室では1年生が先生役になり、算数や国語の問題を出した後、一緒に答え合わせをした。緊張がほぐれてくると、元気よく手をあげる園児の姿があった。1年生は、自分より年下の園児に対し、気を配る様子が見られた。授業を体験した後は、校庭で一緒に鬼ごっこをした。

教室での授業体験や校庭での楽しい運動遊びは、園児にとって貴重な体験となった。



3 令和4年度1年生アンケート結果

11ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 文字や絵などへの興味関心・意欲を減退させずに、筆記用具（鉛筆）の正しい持ち方を定着させる。
- ・ 食器を持ったり、手を添えたりしながら食べるなどの食事に関する作法やマナーを身に付けさせる。
- ・ 上記の課題を考える上で必須と思える体幹（体のバランスや制御）力の向上。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- 鉛筆の持ち方については、就学前施設から小学校低学年の期間で身に付けさせることを目指す。
 - ・ 三角鉛筆の活用などを通して、持ち方の切り替え（文字と絵）の意識付けを折に触れて指導する。
 - ・ 持ち方矯正のような指導は、文字を書くことの興味減退にもつながるので、書きたい意欲を常に持たせられるような指導が就学前施設では大切と、幼保小での共通認識が必要。
- 食器に限らず箸の持ち方も含めて最低限の作法への意識付けを促す。しかし、日本以外の国については食器を持つこと自体が作法に外れる場合もあるので、配慮も必要。
- 一日の中で運動時間の確保。小学校は、コーディネーショントレーニングの導入。就学前施設では、遊びを通して運動する活動を十分に行う。

1 12ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所 認可外保育所
鹿浜第一		<ul style="list-style-type: none"> ・足立このみ ・SAKURA 保育園谷在家 ・谷在家 	
北鹿浜		<ul style="list-style-type: none"> ・鹿浜こども園 ・太陽 	
鹿浜西	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿浜愛育 		
鹿浜 五色桜	<ul style="list-style-type: none"> ・江北白百合 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三上沼田 	
皿沼		<ul style="list-style-type: none"> ・加賀 	
新田 (新田学 園)		<ul style="list-style-type: none"> ・新田わかば ・新田 ・ココロット ・保育園ヴィラ・ココロット ・新田さくら ・新田おひさま 	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼ 保育園新田 ・新田三丁目 なかよし

2 第12ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【新田小学校と新田保育園、新田さくら保育園、新田三丁目なかよし保育園、ココロット保育園、保育園ヴィラ・ココロット、新田おひさま保育園、新田わかば保育園の取り組み】

○ 校庭体験

3園の園児が新田学園グラウンドに集まり自己紹介をした後、混合で50m走を楽しんだ。広いグラウンドに寝そべったり、鬼ごっこをしたり、のびのびと遊び、「小学校で会ったら仲よくしよう」と言って別れた（別日に4園の園児が集まり、同じように新田学園グラウンドで交流した）。

○ 新田地区保育園年長児保護者向け講演会

新田学園第二校舎で、校長が小学校入学までの家庭での親子の関わり方について講演会を行った。資料やスライドを交えての話は分かりやすく、保護者からは入学への不安など、たくさんの質問がでた。

4歳児の保護者にも講演会を知らせたところ、複数名の参加があった。



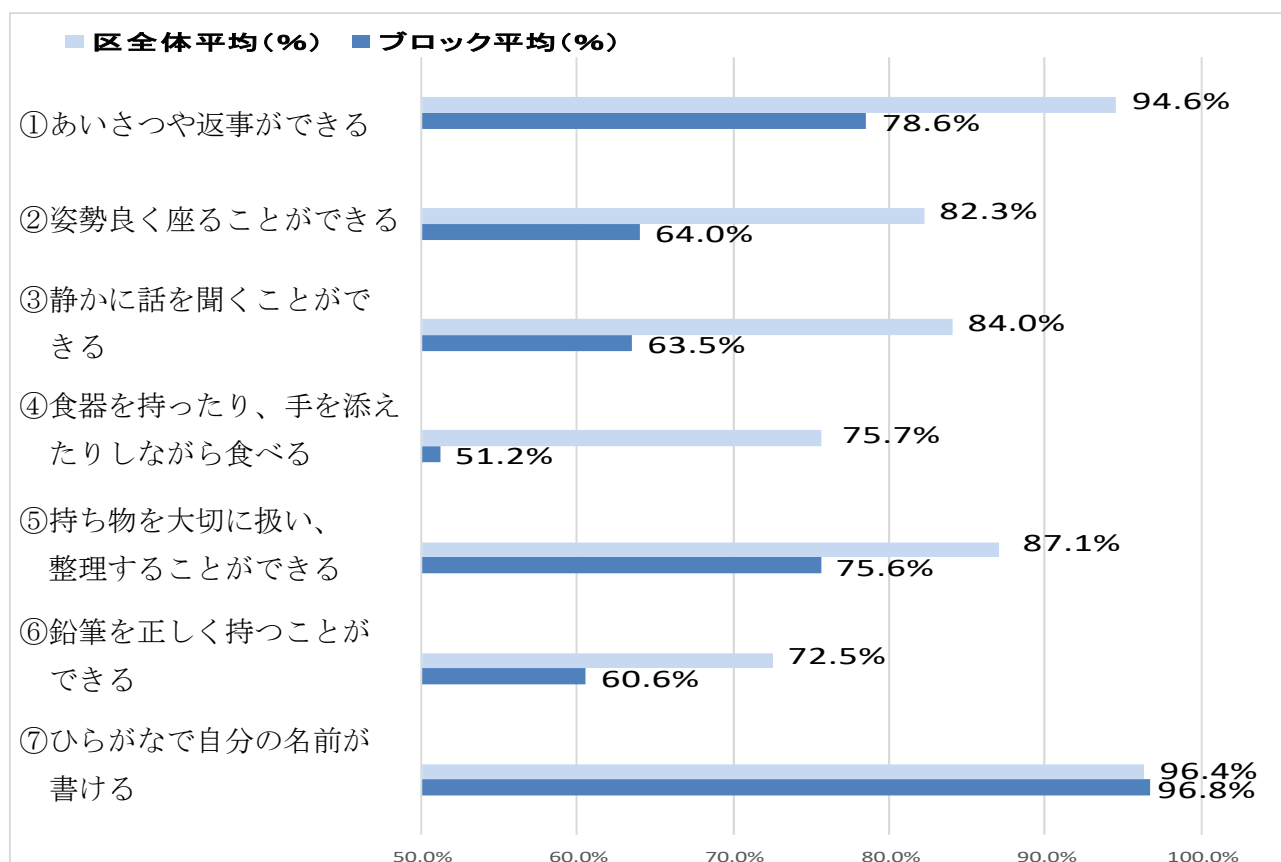
【北鹿浜小学校と谷在家保育園、SAKURA保育園谷在家、足立このみ保育園、第三上沼田保育園、加賀保育園、鹿浜こども園の取り組み】

○ 就学前施設連携活動「施設長意見交換会」

施設長が集まり、就学へつながる保育内容および子どもの育ちについて意見交換をした。「5歳児の食事」をテーマにした意見交換は、各園の状況や課題、特色や取り組み内容などを知るよい機会になった。

3 令和4年度1年生アンケート結果

12ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- 学習中、良い姿勢で最後までしっかり話を聞くことができていない
 - ・ 頬杖や机にもたれる、途中で崩れるなどの姿が小学校・就学前施設共に見られる。
→家庭で学習機を使っていない。体幹がしっかりしていないなど。
 - ・ 話を聞いている間に、知っていること・疑問・思いついたことなどを発言したり周囲に話したりしてしまう一部の児童がいる。
→ソーシャルスキルの向上を意識した指導の継続。
- 食事中、食器を持ったり手を添えたりすることが身に付いていない（箸の持ち方、姿勢保持含む）
 - ・ 食器を置いたまま食べる、間違った箸の持ち方などの癖がついている。
→食器を持つ、手を添えることへの意識の低さが見られる。同時に家庭や国柄による文化の違い、多様性も尊重したい。
- 鉛筆の持ち方に癖がある児童がみられる
 - ・ 癖になってしまっている。・三指持ちがしっかりできていない。・箸の持ち方にもつながる。
→就学までの育ちの中での課題。（年齢発達に応じた食具や筆記用具の使用について、家庭での与え方について）

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 保護者会や文書により児童、園児の姿を保護者と共有し、家庭での保護者の関わり（働きかけや指導）の重要性の理解及び協力を得ながら連携して子どもを育てていけるよう啓発する。
- ・ 認め、励ます指導を継続し、子どもたち自身の自己肯定感を高めていく。
- ・ よいモデルを示し学級全体の意識向上を図る。
- ・ 「なぜ、そうするとよいのか」を具体的に伝え、理解することで、自分事としてやろうとできるようすすめる。
- ・ 就学前施設では、発達に応じた教材教具の提供や、粗大運動、手指の操作性につながる遊びを取り入れるなどを意識する。
- ・ 小学校では、スタートカリキュラムを確実に実施し、幼保小で共有した課題の解決に向けて、指導を継続していく。

1 13ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
舎人	・足立みどり	・聖 ・アスクとねり ・アスク舎人駅前	・てのひら こども園
舎人第一	・とねり伊藤	・いりや第二	
足立入谷		・いりや第一	
古千谷	・足立つばめ ・舎人		

2 第13ブロック 令和3年度 連携活動の主な取り組み事例

【舎人第一小学校ととねり伊藤幼稚園、いりや第二保育園の取り組み】

○ 園児と1年生の交流会

12月に1年生がお店屋さんごっこの計画をし、園児を招待した。

1年生は、各学級5種類程度、手作りのゲームを準備したり、誘導や説明などの役割を分担したり、園児が楽しく遊べる工夫した。

当日は2回に分け、1回目はいりや第二保育園の園児、2回目はとねり伊藤幼稚園の園児を招待して実施した。

最初は、緊張して表情が硬かった園児も、1年生に遊び方を丁寧に教えてもらったり、優しく一緒に遊んでもらったりする中で、表情が和らいでいった。とても楽しかったようで「早く1年生になりたい」と言う園児もいた。



〔はじめのかい〕

1年生と園児の顔合わせ



〔ようこそ、とねいちへ〕

小学生が園児を向かい入れ



〔ロケットとばし〕

得点表を見て、何点か確認中

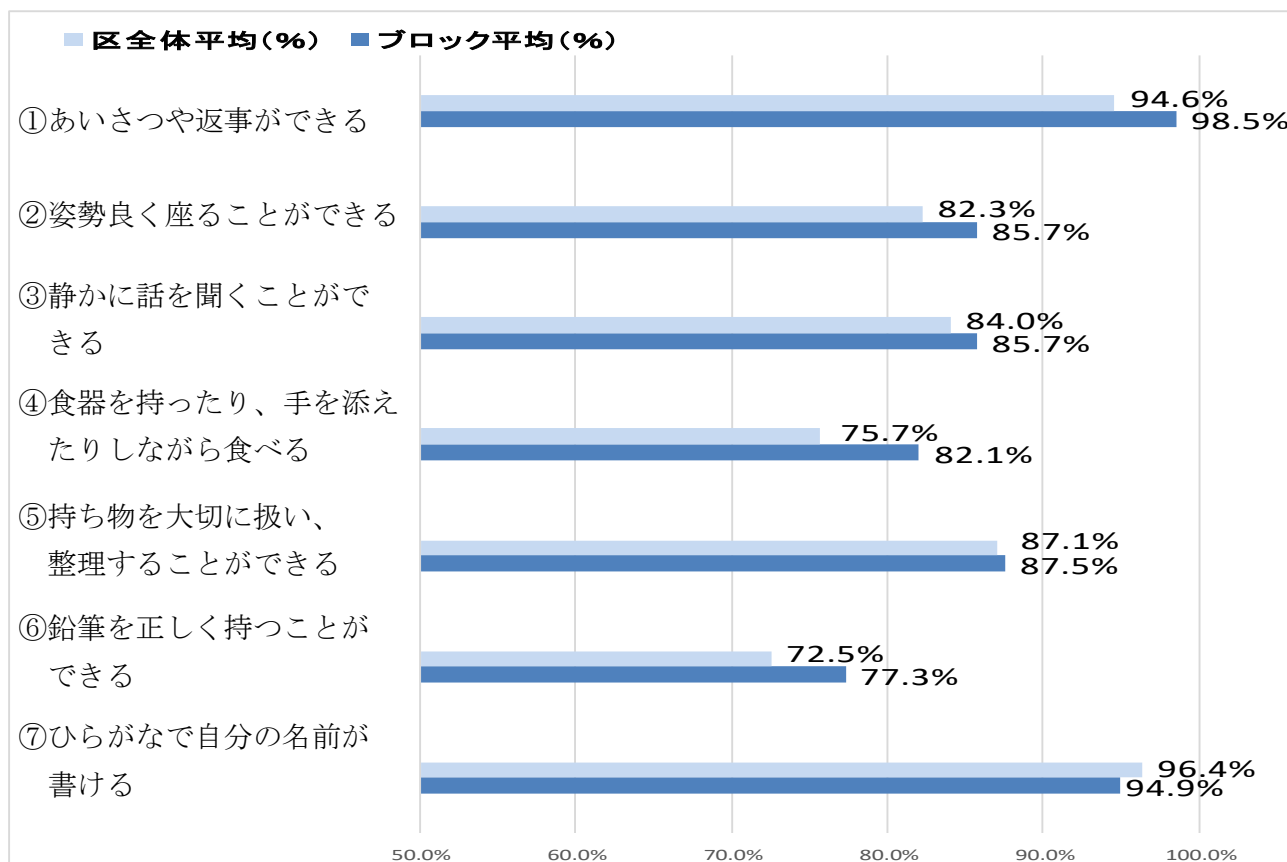


〔コトコトのぼり〕

紙で作った人形を登らせて競争

3 令和4年度1年生アンケート結果

13ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ・ 「姿勢良く座ることができる」「持ち物を大切に扱い、整理することができる」「鉛筆を正しく持つことができる」3つの項目が複数校で共通の課題である。
- ・ 「静かに話を聞くことができる」「食器を持ったり、手を添えたりしながら食べる」についての課題が子どもの姿から見えてきた。
- ・ アンケート実施時の4月は初めての学校生活に緊張が見られたが、6月では学校生活に慣れ、友だちとの関係性も深まってきた。しかし「姿勢良く座ることができる」「静かに話を聞くことができる」には退行する姿も見られる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ・ 子どもが集中する環境をつくり、集中力を高めるための取り組みを工夫する。
教諭、保育士の指示の仕方、話し方ひとつで子どもの反応が変わることを意識していく。
- ・ 正しい姿勢については「足、おなか、顔を話している人の方に向ける」のように具体的な声掛けをし、子ども自身が意識できるようにする。
- ・ 小学校では、机といすのスペースで勉強し、作業等をする。机の中から出したり、入れたりすることや、机の上に出したものを扱うことを意識し、自分の物を自身で片づけることの経験をする。

Ⅱ 接続期教育研修

【目的】就学前教育・保育施設と小学校の連携や、子どもたちの円滑な接続を図るために必要な知見を含め、園・校において必要な指導・支援の力を高める。

1 第1回研修の内容

テーマ【幼児教育から小学校教育における子どもの発達や学びの連続性について】

講義1「子どもの発達や学びの連続性から幼保小接続を考える」

講師：日本体育大学児童スポーツ教育学部 准教授 齊藤 多江子氏

内容

- ・ 幼児教育と小学校以上の教育を貫く三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」）について
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた双方の保育、教育のあり方について
- ・ あだち幼保小接続期カリキュラム「10+4の姿」を指導（援助）する際に考慮すること及び評価の観点の捉え方について

講義2「小学校入学期におけるスタートカリキュラム（週案簿）について」

講師：足立区教育委員会教育指導部教育指導課 指導主事 中村 健太郎

内容

- ・ スタートカリキュラム作成の経緯、ねらい、必要性について
- ・ 幼児教育から学校教育へ移行する際に予想されるギャップについて
- ・ めざす児童の姿（入学3か月後）とスタート時の重点指導内容例について
- ・ スタートカリキュラム（週案簿）を活用した指導例及び「週ごとの指導の重点」について

【受講者評価】

小学校関係者全体の結果

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	62.6%	51.5%
4	36.4%	44.4%
3	1.0%	4.0%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

幼児教育関係者全体の結果

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	63.3%	63.9%
4	32.5%	30.8%
3	4.1%	5.3%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

2 第2回研修の内容

テーマ【育ちと学びがつながる幼児教育と小学校教育】

(1) 実践報告

- ① 区立足立小学校の取り組み 発表者：阿部 香織
内容：幼児期と小学校をつなぐ生活科の実践について
- ② 私立足立つくし幼稚園の取り組み 発表者：鳥原 将平
内容：10の姿の「自然との関わり・生命尊重」に焦点をあてて
- ③ 区立梅田保育園の取り組み 発表者：宍倉 純子
内容：10の姿の「数量や図形などへの関心・感覚」に焦点をあてて

(2) 講評・講義

講師：聖徳大学児童学部児童学科 教授 河合 優子氏

内容

- ① 実践報告からの学びについて
 - ・ 小学校…「0時」の重要性、一人一人の学びからみんなの学びへ（発想や体験をつなぐこと）
 - ・ 幼稚園…季節の変化に出会い、自然・小動物・虫との触れ合いからの学び
 - ・ 保育園…「もっと面白くしたい」気持ちから生まれる遊び、競い合う遊びからの学び（競わされることではない重要性）
- ② 幼稚園、保育所、こども園との小学校の連携について
 - ・ 幼児教育と小学校教育の相互理解を図り、それぞれの特性を理解する
- ③ 幼児教育と小学校教育の接続について
 - ・ アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを活用し接続を考える
 - ・ 子どもを真ん中に「人、組織、教育、空間、時間」をつなぐ

【受講者評価】

小学校関係者全体の結果

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	69.1%	65.4%
4	29.6%	32.1%
3	1.2%	2.5%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

幼児教育関係者全体の結果

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	79.7%	82.7%
4	19.5%	15.8%
3	0.8%	1.5%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%



幼保小連携活動報告

令和4年8月発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区教育委員会 子ども家庭部 子ども施設運営課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5431